

1. これまでの調査・検討経緯の概要と今後の検討方針

1-1. これまでの調査・検討経緯の概要

水循環小委員会は、これまでに3回開催され、

- 関連する調査・検討の成果
- 検討課題と以後の方針
- 水・物質循環系の保全に向けた目標

などについて討議されてきた。

また、釧路川流域では、多くの機関により水循環系の現状の把握などを目的とした調査・検討が進められてきた。

これまでの「水循環小委員会」および「釧路湿原自然再生協議会」等での討議の結果を踏まえ、「釧路湿原自然再生全体構想」では、3つの目標が示された。目標ごとの具体的な施策とあわせ以下に示す。

目標および目標ごとの施策

- 1) 釧路川流域の水・物質循環メカニズムを把握し、他の施策の手法の検討や評価が可能となるようにする。
 - 気象・水文環境を把握する
 - 水理・地質環境を把握する
 - 水収支、水の移動にともなう物質動態を把握する
- 2) 湿原の本来の望ましい地下水位を保全・復元する。
 - 地下水の動態を把握する
 - 湿原植生が維持されるような地下水位を保全・復元する
- 3) 湿原や湖沼、河川に流入する水質が良好に保たれるよう、栄養塩や汚濁物質の負荷を抑制する。
 - 家畜ふん尿対策や下水道整備などによる負荷の軽減をはかる
 - 裸地の森林化などによる土砂流入・栄養塩類の軽減をはかる
 - 土砂調整地・緩衝帯などによる土砂流入・栄養塩類の軽減をはかる
 - 湧水地の保全策を実施する

以下には、平成16年度までの調査・検討成果の概要およびこれまでの経緯と今後の計画に関するフローを示す。「流域の水・物質循環系の保全・再生に向けた調査・検討フロー」を次の図1-1に、「釧路川流域の現状と水・物質循環に関する調査・検討の必要性」を次ページの図1-2に示す。

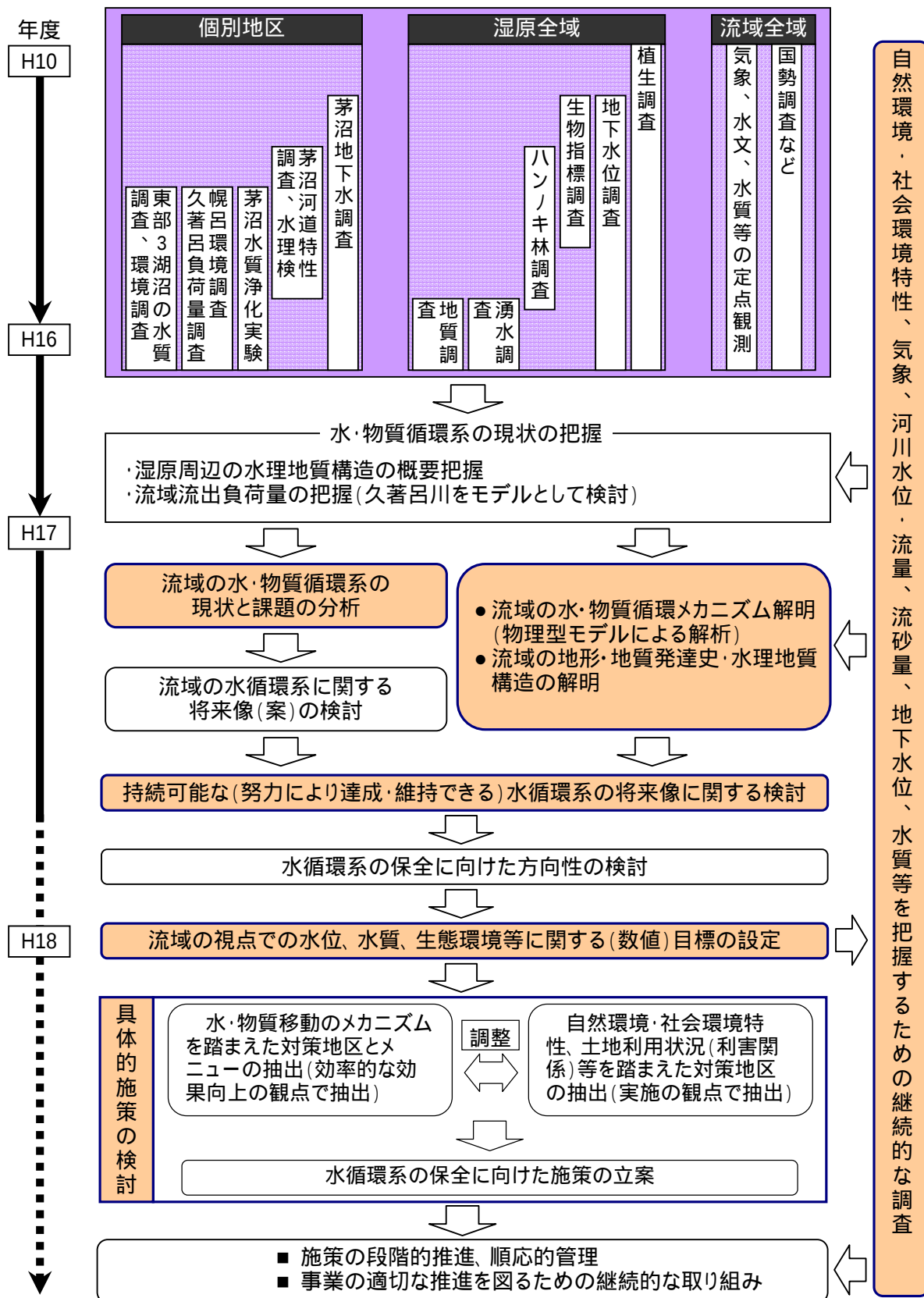


図 1-1 流域の水・物質循環系の保全・再生に向けた調査・検討フロー

【釧路川流域の現状と水・物質循環に関する調査・検討の必要性】

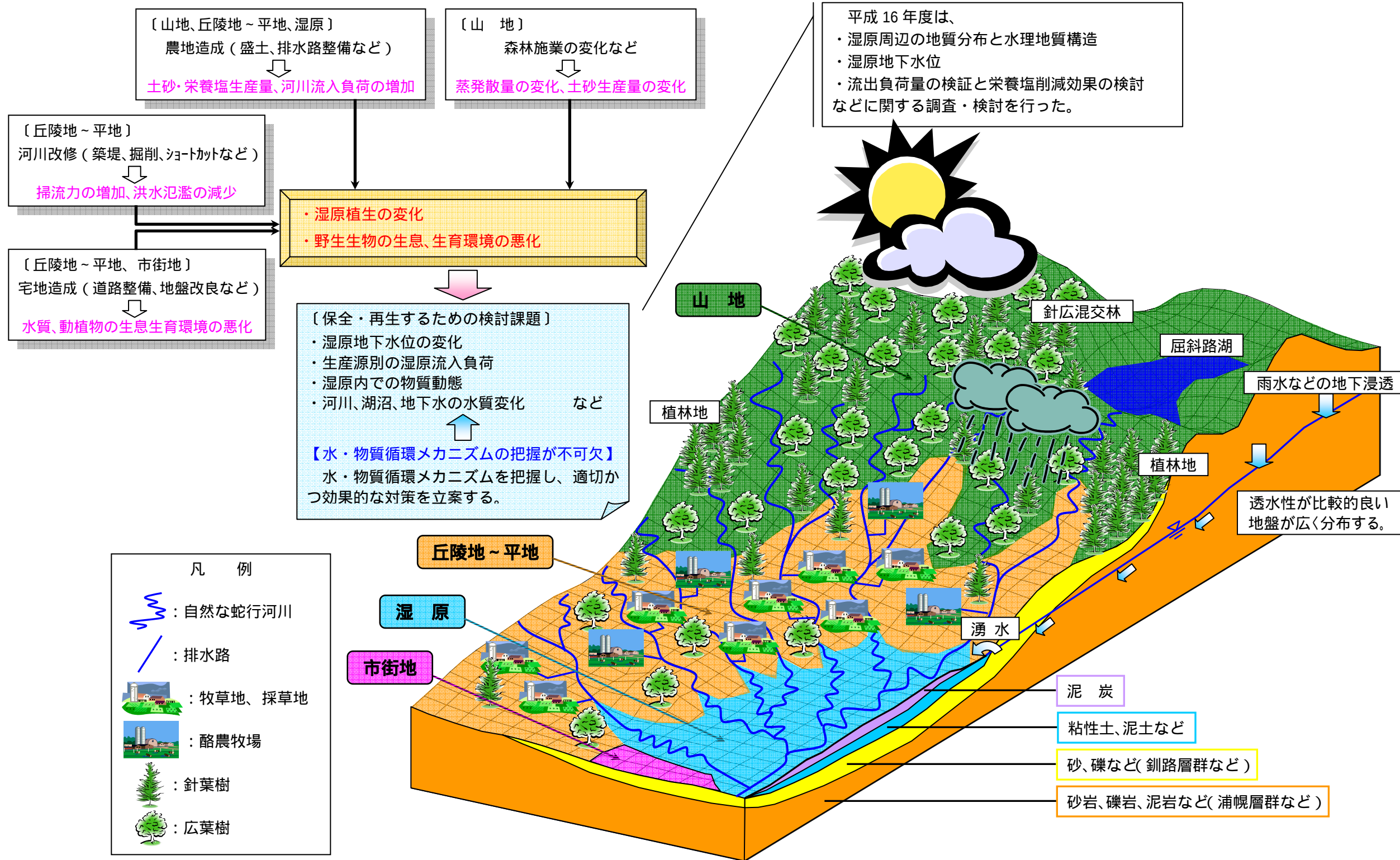


図 1-2 釧路川流域の現状と水・物質循環に関する調査・検討の必要性

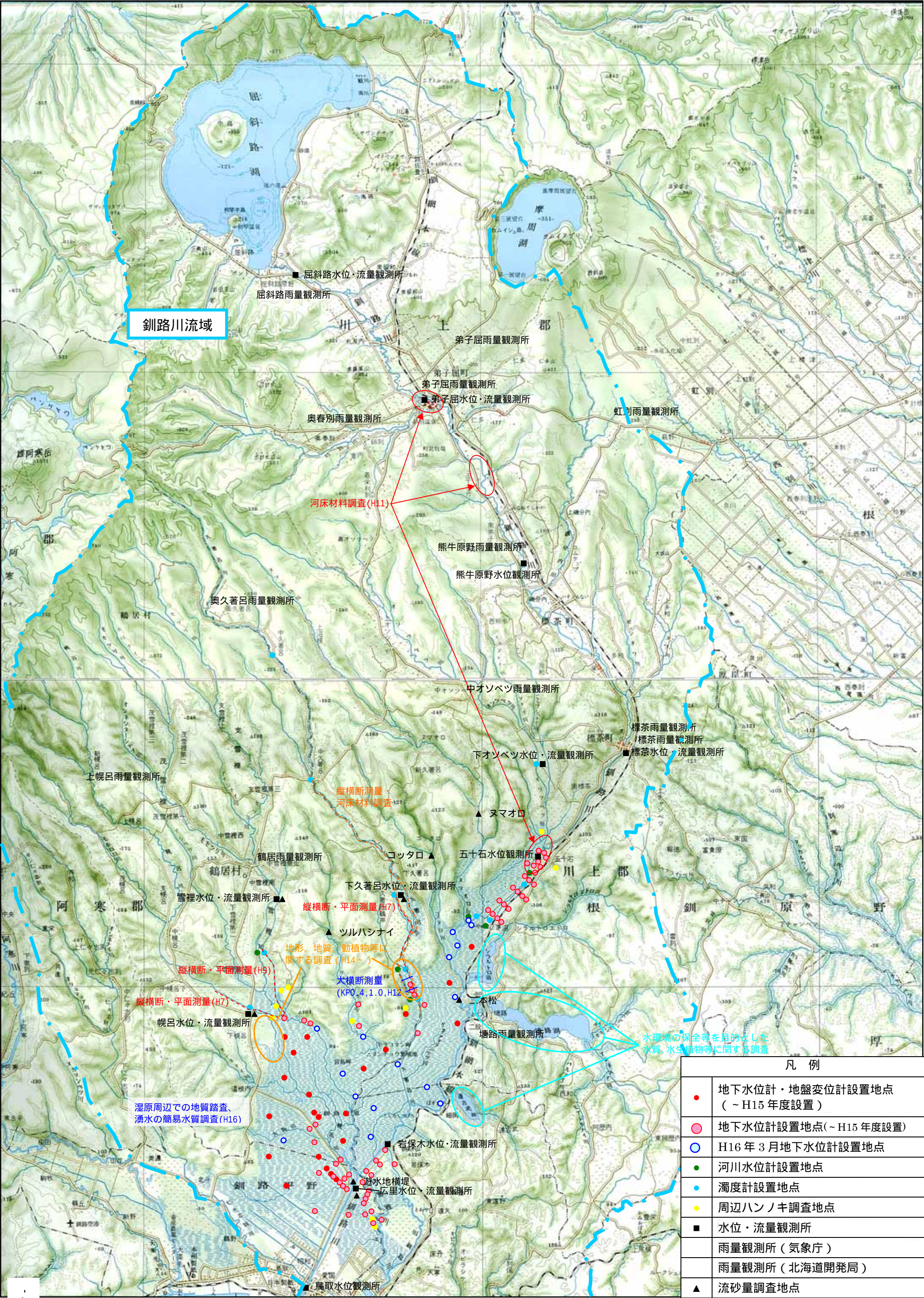


図 1-3 釧路川流域の調査位置図（縮尺：1/200,000）

1-2. 平成 17 年以降の検討方針

これまで、気象、水文等の基礎調査および水・物質循環系の現状の把握等を目的とした調査・検討を行い、釧路湿原の自然史、流域の流出負荷量等の把握に努めてきた。

前述の目標を達成する上での今後の取り組みについて、概要を下表に示す。

表 1-2-1 流域の水・物質循環系の保全・再生に向けた今後の検討方針

目 標	今 後 の 検 討 方 針	
	当 面（H17 年～）	引き続き取り組む事項
1) 釧路川流域の水・物質循環メカニズムを把握し、他の施策の手法の検討や評価が可能となるようにする。	・ 湿原および流域における観測データの解釈 ・ 適切な解析モデルによる、流域における水の移動状況の再現 ・ 水の移動に伴う物質の移動状況の解明	・ これまでの検討で選定した流域の流出負荷量推定法に左記で再現した水の移動状況を当てはめた、流域における物質移動状況の把握
	・ 流域の地質構造の詳細把握 ・ 流域の水理地質構造の詳細把握	・ 流域の水理地質構造の解明 ・ 釧路湿原形成史の検討
2) 湿原の本来の望ましい地下水位を保全・復元する。		・ 選定した解析モデルを用いた、自然の変化の状態を維持していたと考えられる時代の湿原地下水位の再現（推定） ・ 湿原本来の望ましい地下水位の状態の把握 ・ 流域の水・物質循環系保全の観点に立った効果的な施策の提案
3) 湿原や湖沼、河川に流入する水質が良好に保たれるよう、栄養塩や汚濁物質の負荷を抑制する。	・ 久著呂川を除く他流域の栄養塩流出負荷量の把握 ・ 流域対策による栄養塩削減効果の検討	・ 土砂流入対策と連携した久著呂川流域での対策検討